

第3学年 授業改善推進プラン

1組 27 | 2組 27

1. 昨年度 授業改善推進プランについての検証

国語科	読書や音読は興味を持って取り組んでいる。辞書を用いての言語活動に関しては意欲的に取り組んでいるが漢字の書き取りに課題がある。また、文章を読んで自分の意見を書く、登場人物の気持ちを読み取って書き出すことが苦手な児童がいる。
社会科	学習指導要領の改訂により、指導内容、副読本の内容が変わってきている。地図の活用や資料の読み取り・比較することには意欲的に取り組んでいるが、区に関する知識・理解やグラフの読み取りなどが苦手な児童がいる。
算数科	文章の読み取りが不十分で、題意をとらえることができないという課題がある。計算処理は速いが、たす・たされる、かける・かけられるなどの仕組みの理解が不十分である。計算は理解しているが、解き方や考え方を図や言葉で表現するのが難しい児童がいる。
理科	植物や昆虫の観察・育成、太陽の動きの観察などに興味をもって取り組む児童が多い。児童によっては、観察する視点を活用できずただ見るだけに留まっていることがある。比較や関連付けをする力が弱い児童がいる。
体育科	体育や他者との勝敗や記録を競うだけでなく、自己記録を伸ばす・目標に向かって取り組むという意識や姿勢は少しずつ身に付いてきた。決まりを守って安全に運動するという意識がまだまだなので高めていく必要がある。児童によっては、体を巧みに動かすことに対して苦手意識がある。場を計画的に設定して技能面を上達させていく。
音楽科	歌唱も器楽も意欲的に取り組んでいる。リコーダーもソラレまでの運指を覚えつつある。ただ、まだ慣れない面も多く運指が混乱してしまう時がある。
図画工作科	意欲的に活動に取り組んでいる。発想を豊かに広げられない児童もいる。

2. 令和元年度 授業改善推進プラン

国語科

関心・意欲・態度	課題 文章を読んで感じたことを発表したり、友達の考えや意見を聞いて質問したり感想を述べたりすることに消極的な児童がいる。 重点 全体への意見発表だけでなくペア学習やグループ学習で意見交換する場面を多く設定し、自分の考えを発表する機会を多くする。
話すこと 聞くこと	課題 自分の考えを話すことができる児童が多いが、話の中心に気を付けて聞きとることが不十分である。 重点 話型を提示したり、話の聞き方のルールを意識させたりする。ペアやグループなど少人数での発表の機会を多くし、話すこと聞くことに慣れさせ、話の中心などを自分のノートに書き加える機会を増やしていく。
書くこと	課題 段落の役割を理解し、段落相互の関係性に注意して文章を書くことが不十分である。 重点 はじめ・なか・おわりの構成や場面分けをして整理して考えさせる。場面ごとに何を書くのか構成の見通しを立てて、その構成に沿って文章を考えさせるようにする。「書くて楽しいね」を活用し指導する。
読むこと	課題 正しく音読できる児童が多いが、場面の変化、登場人物の気持ちの移り変わりなど起承転結を考えずに読んでしまう児童が多い。 重点 段落分け、場面分けなど整理しながら読む時間を確保する。話の大事な部分やキーワードに線を引き、自分が感じたことや、どこを読んで自分がそう思ったのかを考えながら読もうという意識をもたせる。
言語に関する 知識・理解	課題 漢字の学習で、正しい字形・使い方・書き順を理解していない。全学年の漢字が定着が不十分な児童がいる。 重点 既習の漢字も含め、児童が間違えやすい漢字の字形や書き順を丁寧に指導する。家庭学習も含め、全学年までの漢字に関しても繰り返し練習し定着を図る。

社会科

関心・意欲・態度	課題 地域めぐりや区内めぐりなど体験的活動には意欲的であるが、資料を読み取ったり、資料から分かることを考えようとしていたりすることに課題がある。 重点 地域めぐりで調べたことを、地域の地図を用いて学習を関連付けて指導して興味関心を高めていく。地図や高低差のある地形についての学習などにICT機器を取り入れて意欲の高まる学習を展開する。
社会的な 思考・判断・ 表現	課題 分かったことや調べたことを基に、自分の考えをもつことが難しい児童が見られる。 重点 クラスや班で話し合う場面や考えをノートに書く時間を多く設けるとともに、調べ学習の時は事前に何を調べたいかを整理して、めあてをはっきりさせてから学習に取り組ませるようにする。
資料活用 の技能	課題 地図記号や方位は知識として習得しているが、自分の位置から東西南北の方角がわからない児童がいる。また、グラフや写真などの資料から、特徴を見つけたり、様子を読み取る力が身に付いていない。 重点 地図を使って学習するときその都度方角を確認する。目標とする方角に何があるのか、目印になる建物や場所を意識させ、方角に関する理解を深めていく。グラフや写真などを見て、わかることや気が付いたことを発表する、書き出す活動を多く取り入れていく。
社会事象 の理解	課題 社会的事象に対して、物事と物事を比べたり、関連させたりして考えたり整理したりするのが難しい児童がいる。 重点 二つ以上の資料から、共通点・類似点や相違点など比較したり関連付けて考える活動を多く取り入れる。

算数科

関心・意欲・態度	課題 全体的に意欲は高く前向きであるが、苦手意識が芽生えてくる時期でもあり、消極的になっている児童もいる。 重点 習熟度別学習では、実態に応じて教材を変え、児童の意欲を高めていく。問題を厳選する、友達と協力して問題を解くなど、正答数を上げたり、やり抜くことを通したりさせて、達成感を多く感じる学習を取り入れる。
算数的な 思考・判断・ 表現	課題 文章問題に対する思考（読み取り・見通し）に課題があり、題意をとらえることが難しい児童がいる。 重点 場面をイメージできるように絵や図で表し、場面を基に立式の判断ができるようにする。考え方や解き方の手順を箇条書きで整理させることで、思考の流れを図式化する。
算数的な 技能	課題 基礎的な計算はできている児童が多い。「時刻と時間」と「暗算」の定着は全体的にやや不十分である。 重点 補習教室で技能や知識・理解の習得を図るとともに、プリントやドリルなどで繰り返し復習する。また、学習状況に応じて日常的に時刻や計算の暗算をさせるような指示や言葉かけを行ったりする。
知識・理解	課題 理解に時間を要する児童がいる。様々な単位の意味や単位の換算を正確に理解していない。 重点 時刻と時間、長さや重さなどの単位の学習では、量感や質感を養えるように体験的な学習を多く取り入れて理解が深まるようにする。

理科

関心・意欲・態度	課題	観察する際、大きさや色、形など指示されたことだけを調べて書いて終わりになってしまう児童がいる。
	重点	それぞれが観察したことを学級全体で共有し、自分が気付かなかったことに気付いたり、「次はどうなるか」「なぜそうなのか」を考察・予想し合ったりすることで、児童の興味・関心を高める。
科学的な思考・表現	課題	観察から自然の事物・現象を比較して共通点や相異点を見付けることはできるが、文章を使って表現することに課題がある児童がいる。自分の経験から得た情報や知識などから、根拠を明確にして予想を立てることが難しい。
	重点	予想の際、根拠につながるような生活経験を児童に振り返らせるようにする。結果を基に考察する場面では、自分の予想との比較を行い、友達と考えを話し合う活動を充実させるようにする。
科学的な技能	課題	安全に気を付けて実験や観察しようとする意識はあるが、注意が逸れたり手先が不器用で、道具を正しく使うことに課題がある。
	重点	道具や器具の使い方指導では、危険な使い方や正しい使い方の理由を説明にする。絵や写真を使って、既習の実験用具の使い方を授業の導入で確認する。実験の際、班で役割分担を決めた上で行う。
知識・理解	課題	これまでの生活経験や本やテレビなど、周りの情報から当たり前のこととわかっている事象に対し、「なぜそうなのか」という疑問や不思議を抱きにくい児童がいる。
	重点	当たり前のこととして捉えている事象に対し、違う結果や考え方を見せることで「本当にそうなのか」「調べてみたい」という思いをもたせる導入にする。

体育科

関心・意欲・態度	課題	運動の楽しさや喜びを感じながら取り組んでいる児童が多い。苦手意識から進んで運動に取り組もうとする態度が見られない児童がいる。
	重点	きまりを守り仲よく運動する、ねらいとする動きの基礎的な運動に取り組んだり、補助をしたり補助具を使ったりして感覚をつかんで運動に取り組もうとする意欲をもてるようにする。
運動に対する思考・判断	課題	ただ動く・取り組むだけで終わってしまう児童が多く、めあてや技能を向上させるためにどうすればよいのか考えずに動いている場面が多い。
	重点	個人やグループで具体的なめあてを決める。児童相互で確認できるような技能を上達させるためのポイントを指導し、個人やグループの状況に応じて練習を選択したり工夫したりして運動できるようにする。
運動における技能	課題	体を動かす経験が少なく、基本的な技能や運動の特性に応じて体を動かす動作や感覚をつかめていない児童もいる。
	重点	様々な動きに慣れるようにしたり、体の部位の使い方や効果的な動き方を高められるような準備運動やドリルゲームを取り入れていく。技能別に練習する技や方法を変えて、基本的な動きを身に付けられるように指導する。
安全・健康に対する知識・理解	課題	
	重点	自分たちの生活と関連付け、健康に良い生活の仕方を理解できるようにする。早寝・早起き・朝ご飯月間や食育や安全指導月間などと関連付けて具体的に実行する期間を設け体験的に学べるようにする。

音楽科

関心・意欲・態度	課題	音楽に興味をもって楽しく活動している。鍵盤ハーモニカの運指が円滑にできない児童が一部いる。
	重点	毎時間、鍵盤ハーモニカに取り組む時間をなるべく作り、慣れ親しませていく。
表現の創意工夫	課題	2拍子や3拍子のリズム打ちにも意欲的に正確に取り組むことができる一方で、音作りでは音のある部分と静けさのコントラストについての理解が難しい児童がいた。
	重点	歌唱や器楽の中で拍の流れの中で休符を意識させる活動を取り入れていく。
表現の技能	課題	鍵盤ハーモニカでは概ねの児童が1オクターブの音域を、指くぐりや指またぎを使って運指に気を付けて演奏することができている。しかし中には、取り組みが難しい児童がみられる。
	重点	鍵盤図を黒板に掲示して運指について確認し合ったり、技能が身に付きにくい児童には個別指導を行ったりしていく。
鑑賞の能力	課題	リズムを打ちながら鑑賞するなど意欲的に取り組んでいる一方、感じたことを表現する力が十分でない児童がいる。
	重点	鑑賞のめあてを明確にすることで、音楽の要素に着目させて聴くようにしていく。児童の意見を板書するなどして、感じたことを互いに伝え合うようにしていく。

図画工作科

造形への関心・意欲・態度	課題	楽しんで造形活動に取り組んでいる児童が多い。継続できるようにする。
	重点	グループでの活動や造形遊びを多く取り入れて、さらに活動への意欲を高めていく。
発想や構想の能力	課題	発想が広がらなかつたり、思いついたことの表し方がわからなかつたりする児童もいる。
	重点	作品鑑賞を通して様々な表現に気付かせる。教師や周りの友達との話し合いをもとに、発想・構想できるようにする。
創造的な技能	課題	基本的な用具の使い方が定着していない児童がいる。個人差が大きい。
	重点	ICTを活用しながら、用具の使い方や持ち方などを確認する。新しい用具の使い方を練習する時間を設ける。
鑑賞の能力	課題	友人の作品を楽しく見たり、よさに気付いたりして、自分の表現に取り入れることができる。継続できるようにする。
	重点	形や色、材料の感じなどに気付けるよう、感じたことを話したり、友達の話の聞いたりする活動を、活動の途中にも取り入れる。